

## 若者ほど「内閣支持」(抜粋)

毎日 2020/11/24 より

### 将来不安「保守」より「保身」?

- ・1980年代後半まで、自民党の支持率は若い世代ほど低かった。
- ・右図の結果は、若い世代の『今を変えたくない』『変わってほしくない』という「現状維持」の志向が表れている。『保守』というよりも『保身』と言うべきで、政治的な意味での保守化とは次元が違うのではないか。
- ・若者の「現状維持」志向は、何が要因か……若者は日本社会の将来について明るい見通しを持っていない人が多数派だ。現状は格差社会で『生きにくい社会』だ。それでも、若者が現状維持志向なのは『これ以上ひどくならないように』との思いからだ。
- ・若い世代は「ルール」や「秩序」を重視する傾向がある。今の生活がより悪くならないよう、守ってくれているのが「ルール」や「秩序」だという発想だ。現在の『ルール』や『秩序』をつかさどっているのが、菅内閣であり自民党というイメージがある。若い世代の内閣や自民党への支持は、『政治を動かしているのは菅内閣、自民党でしょ』ぐらいの感覚なのではないか。

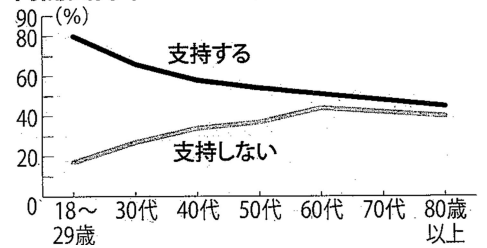
### 「NOと言えない」

- ・他の政党に期待できそうにないから自民党を選び、菅さんがダメなら誰がいいか思いつかないから『このままでいいか』となる。積極的な支持というより、消極的な支持ではないか。
- ・若い世代が「不支持」を選ぶことは、「支持」を選ぶよりもハードルが高い。政治に限らず『ノー』と言うには、ちゃんとした理由が必要。内閣についても基本は『イエス』から始まり、どうしても許せないときに初めて『ノー』という選択肢が出てくる。
- ・少子高齢化や格差拡大が進み、若年層には閉塞感も漂う。これまでの人生で、世の中が上向きだったことがない。20年後はもっと悪いだらうなというイメージがある。政治に対する期待感は、他の世代に比べて低い。

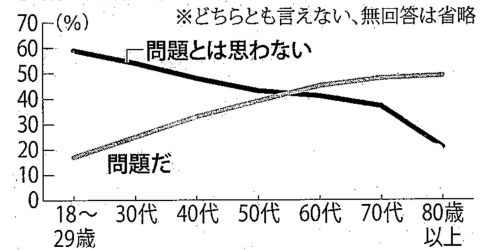
### 現状維持志向の原因は (抜粋) 赤旗 2020/12/7「テレビ考現学」より

- ・ゼミを担当して、グループに分けてディベート(討論)をさせると成立しませんでした。その時「自分の意見を言ってもいいんですか」と、学生から質問され驚きました。これまでの学校生活の中で「意見はあるけれど、それを言うと周囲から浮いてしまうから」と、友達との会話も意見は言わず合わせてきたと学生は異口同様に説明します。
- ・毎日新聞11月の世論調査で、18歳～29歳の内閣支持率は80%(全体では57%)でびっくりです。また自民党の支持率は59%(全体は37%)、日本学術会議会員候補6人の任命拒否を「問題とは思わない」若者が59%なのに、空恐ろしくなりました。
- ・いま大人たちには「自分の意見を言ってもいいんだよ」と、若者を優しく励ましてほしい。そして、いつか多くの若者が動き出せば「社会は今より必ず良い方向に変わる」と、希望の言葉をかけ続けることではないでしょうか。
- ・さあつまらぬ『保身』より楽しい『変身』へと誘いましょう。

内閣支持率 ※無回答は省略



学術会議任命拒否問題 ※どちらとも言えない、無回答は省略



次期米大統領、日本にとって好ましいのは ※どちらとも言えない、無回答は省略

